

大会主題

未来に向けて考え続け、よりよい社会を切り拓く子どもの育成
 -社会に対する認識と判断する力を育む社会科学習-

【社会の情勢とめざす教育の方向性】

子どもたちが18歳成人として生きていく未来を予測することは困難
 一人一人が社会を創る主体となり、持続可能でウェルビーイングが実現されるよりよい社会をめざす

めざす子ども像

未来に向けて考え続け、社会の創り手として、
 よりよい社会を協働して切り拓いていくことができる子ども

認識

判断する力

社会の特色や意味などが深く分かる



根拠や理由をもって自分の考えを決める力

他者とともに社会の在り方を考える

2012～2015年度 認識を中心とした研究

2002～2011年度 判断を中心とした研究

2016年度より 認識と判断をバランスよく育む研究

社会に対する認識と判断する力を育む社会科学習

研究内容1

単元構想と振り返り

(1) 単元構想の方策

(子どもの意識がつながる単元づくり)

① 日常的アプローチ

単元前から関心を高めたり見取ったりし、学習へ意識をつなげる工夫。

② 学習問題づくり

・発問や資料提示を工夫し、学習の方向性を意図的に設定。
 ・曖昧さや意外性などを取り入れた導入の工夫により、「もっと知りたい」「これを調べれば…」と思える学習へ。

③ 予想や学習計画と単元展開

・疑問や予想を分類・整理し、学習計画(内容・方法)に反映。
 ・学習方法等の選択を子どもに委ねて個別最適な学びや学習調整を促進するとともに、意図的・計画的な部分も大切に単元展開を設計。

(2) 振り返りの方策

(子どもの意識をつなげる振り返りの方策)

① 振り返りの観点

- ア. 自分の学習や変容を自覚する観点
- イ. 今後の学習や生活へとつながる観点

② 考えの見取りと活用

学習前

問題をつかむ

予想をたてる

調べ方をきめる

調べたしかめる

みんなで考え話し合う

ひろげ深める

学習後

研究内容2

判断する場面の設定

(1) 柔軟な場面設定

A	社会への関わり方を考える判断 (社会への関わり方を選択・判断)
B	深く分かることにつながる判断 (社会の特色や意味などに迫る判断)
C	見通しをもつことにつながる判断 (今後の学習につながる予想を含む判断)

(2) 判断への意欲を高める工夫

矛盾・対立・葛藤・相違(ズレ)・情意(感情)・課題の明確化などの要素に注目して

創意工夫を生かした
 場面設定と手だて

研究内容3

考えを深める手だて

(1) 発問・言葉かけ

ゆさぶる、焦点化する、整理する、具体化する・一般化する、確認する、子ども同士をつなぐ など

(2) 資料提示

地図・年表・関係図等の活用 など

(3) 板書

対立する意見の書き分け、考えの立ち位置を表す など

(4) 視点や立場の明確化

考える観点や立場の明確化 など